

「密」な時間を重ねて

那須 雅子

岡山大学

毎朝、ミカンを置いた庭先のプランターを眺めるのが日課です。冬のあいだは、ポツリポツリとやって来ていた小鳥たちが、立春を迎える頃になると、ツガイでやってくるようになります。スズメやメジロたちが忙しげに交ざり合い、プランターを囲んで「密」になって啄む光景に心癒されます。

去年は、新型コロナウイルス感染症が世界中に広まり、コロナに翻弄され続けた1年でした。2020年春には、関東学院大学で開催予定であったJAILA全国大会も中止を余儀なくされ、多くの会員の懸命の努力が泡に消えたかに見えました。しかし、2021年春、ウェブ開催においてその努力が形を変えて実ろうとしています。本誌が公開される頃には、去年の悔しさを包み込む充実感をみなさんと分かち合っていることでしょう。

本誌JAILA Journal第7号の発刊もまた、いつも以上の感慨深さを持って迎えました。1年前には、想像もしなかった厳しい月日が流れました。状況は異なっても、すべての会員がそれぞれに苦しい時を過ごされてきたと思います。そのような長く苦しい時間の中で、今号は出来上がりました。本誌にご投稿くださった方々、編集査読に関わってくださった方々の熱意や真摯な思いがどのページにも詰まっていることを、いつもに増して深く感じずにはられません。

世の中が、人間の生きる姿が、大きく変わろうとしているようです。人間の「生きる」ことの意味も変わっていくのでしょうか。いいえ、世の中は思い通りに進まなくても、生活スタイルがどんなに変化しようとも、同じ気持ちで人と繋がり、交ざり合い、共に分かち合うことに意味が見いだされることは変わらないでしょう。JAILA Journalには、創刊から変わらず、分野の垣根を越えて交流し学び合おうとする会員から寄せられた数々の論考が集まっています。今後も、この知性が交ざり合う饗宴で、みなさんと共に「密」な時間を重ねていきたいと心より願っています。